

令和元年度 第3回

杉並区区政モニターアンケート
「性的少数者（性的マイノリティ）について」

集計結果報告書



令和2年1月実施

杉並区総務部区政相談課

「性的少数者(性的マイノリティ)について」

調査の概要

1 調査の目的

近年、「多様な性」について、マスメディアで取り上げられることが増えてきています。調査により異なりますが、性的マイノリティの割合は、7～8%程度という結果が多く、約13人に1人の割合と言われています。

区では、人権問題の一つである性的マイノリティに対する差別や偏見が解消され、「多様な性」について正しい認識と理解が促進されるよう啓発活動に取り組んでいます。つきましては、今後の啓発事業の参考とさせていただくため、アンケートを実施しました。

2 調査期間 1月17日～2月10日

3 対象者(区政モニター) 197人(=N)

4 回答者数 182人(=n) 回答率 92.4%

5 回答者構成

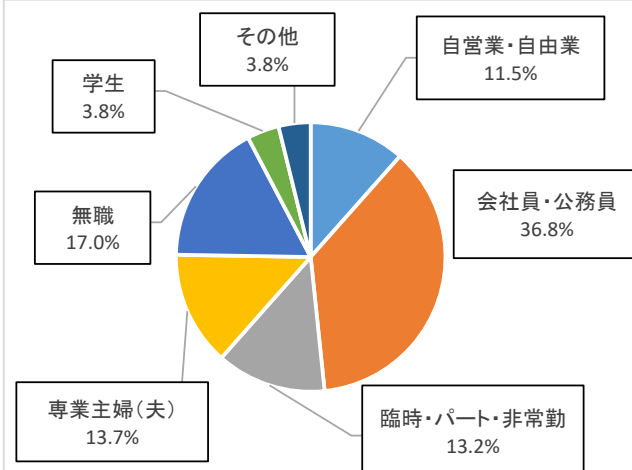
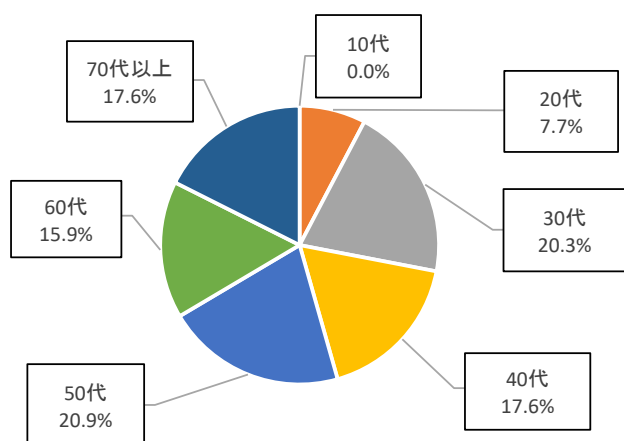
単位：人

〈年代別構成〉	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
男性	0	9	13	17	15	17	22	93
女性	0	5	24	15	23	12	10	89
どちらとも言えない	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	14	37	32	38	29	32	182
割合	0.0%	7.7%	20.3%	17.6%	20.9%	15.9%	17.6%	100%

単位：人

	自営業・自由業	会社員・公務員	臨時・パート・非常勤	専業主婦(夫)	無職	学生	その他	合計
人数	21	67	24	25	31	7	7	182
割合	11.5%	36.8%	13.2%	13.7%	17.0%	3.8%	3.8%	100%

※その他・・・
団体顧問・大学教員・学習塾経営



6 集計結果の表示について

(1) 各項の初めにあるnは、回答者数を表しています。

(2) 百分率は、小数第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。

◆「多様な性」についてお尋ねします。

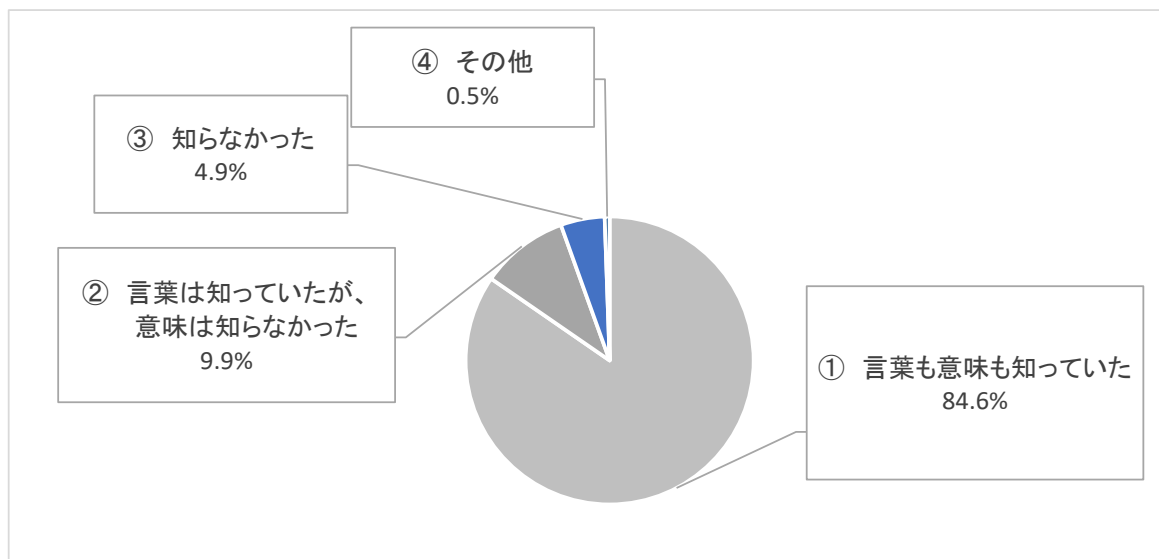
問4 あなたは、次の言葉と意味について知っていましたか。(それぞれ〇は1つ)

ア. 性的マイノリティ

n = 182

	合計		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 言葉も意味も知っていた	154	84.6%	男性	82	8	27	30	17
			女性	72	5	33	27	7
② 言葉は知っていたが、意味は知らなかった	18	9.9%	男性	7	0	1	1	5
			女性	11	0	4	6	1
③ 知らなかった	9	4.9%	男性	4	1	2	1	0
			女性	5	0	2	1	2
④ その他	1	0.5%	男性	0	0	0	0	0
			女性	1	0	0	1	0
合計	182	100%	男性	93	9	30	32	22
			女性	89	5	39	35	10

※その他・・・
なんとなく知っているような知らないような。



「①言葉も意味も知っていた」(84.6%)が、8割半ばとなって、最も多かった。続いて、「②言葉は知っていたが、意味は知らなかった」(9.9%)が1割、「③知らなかった」(4.9%)が1割未満となった。

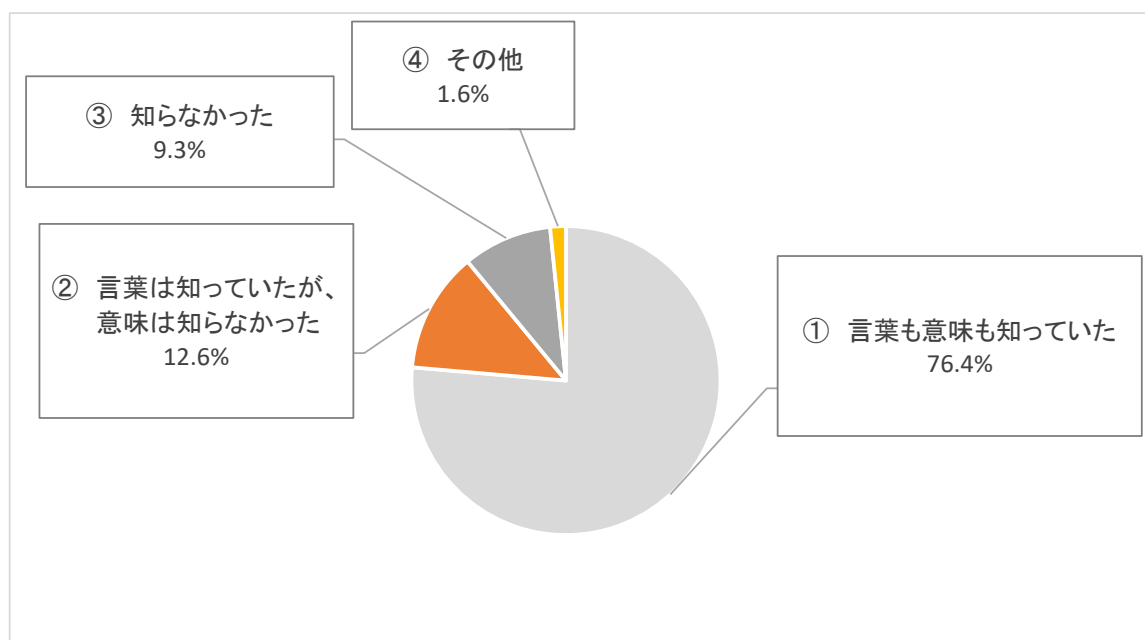
イ. LGBT

n = 182

	合計		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
			男性	女性				
① 言葉も意味も知っていた	139	76.4%	男性	71	8	24	27	12
			女性	68	4	32	27	5
② 言葉は知っていたが、意味は知らなかった	23	12.6%	男性	12	0	3	4	5
			女性	11	0	5	3	3
③ 知らなかった	17	9.3%	男性	9	1	2	1	5
			女性	8	0	2	4	2
④ その他	3	1.6%	男性	1	0	1	0	0
			女性	2	1	0	1	0
合計	182	100%	男性	93	9	30	32	22
			女性	89	5	39	35	10

※その他・・・

LGBTのT（トランスジェンダー）だけ知らなかった。なんとなく知っている程度。今回家族に聞いて知った。

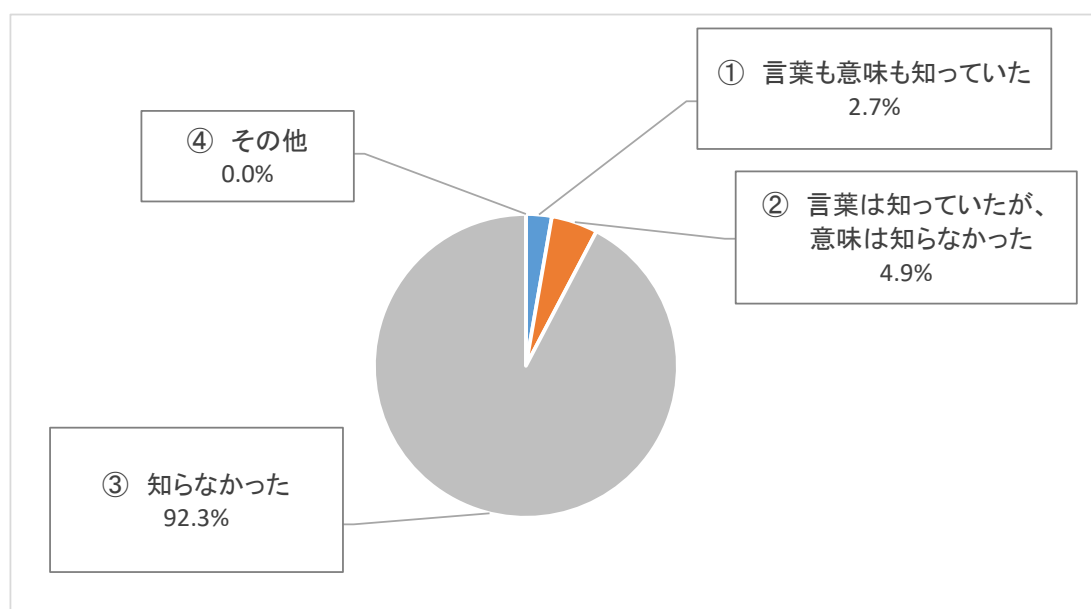


「①言葉も意味も知っていた」（76.4%）が7割半ばとなり最も多く、次いで「②言葉は知っていたが、意味は知らなかった」（12.6%）が1割を超えた。

ウ. SOGI (ソジ)

n = 182

	合計		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
			男性	女性				
① 言葉も意味も知っていた	5	2.7%	男性	1	0	0	1	0
			女性	4	1	0	0	3
② 言葉は知っていたが、意味は知らなかった	9	4.9%	男性	3	0	1	1	1
			女性	6	1	1	2	2
③ 知らなかった	168	92.3%	男性	89	9	29	30	21
			女性	79	3	38	33	5
④ その他	0	0.0%	男性	0	0	0	0	0
			女性	0	0	0	0	0
合 計	182	100%	男性	93	9	30	32	22
			女性	89	5	39	35	10



「③知らなかった」(92.3%)が9割を超え、「②言葉は知っていたが、意味は知らなかった」(4.9%)、「①言葉も意味も知っていた」(2.7%)で、1割未満となった。

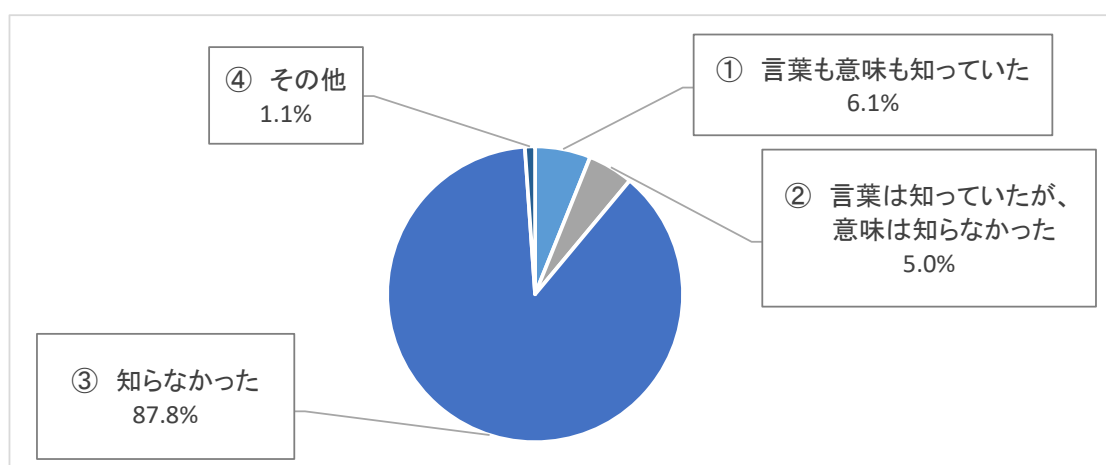
エ.アライ (A l l y)

n = 181

	合計		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
			男性	女性				
① 言葉も意味も知っていた	11	6.1%	男性	3	1	1	1	0
			女性	8	1	3	1	3
② 言葉は知っていたが、意味は知らなかった	9	5.0%	男性	5	0	2	1	2
			女性	4	0	1	2	1
③ 知らなかった	159	87.8%	男性	82	8	27	28	19
			女性	77	4	35	32	6
④ その他	2	1.1%	男性	2	0	0	1	1
			女性	0	0	0	0	0
合 計	181	100%	男性	92	9	30	31	22
			女性	89	5	39	35	10

回答未選択: 1

※その他・・・
バディだと思った。

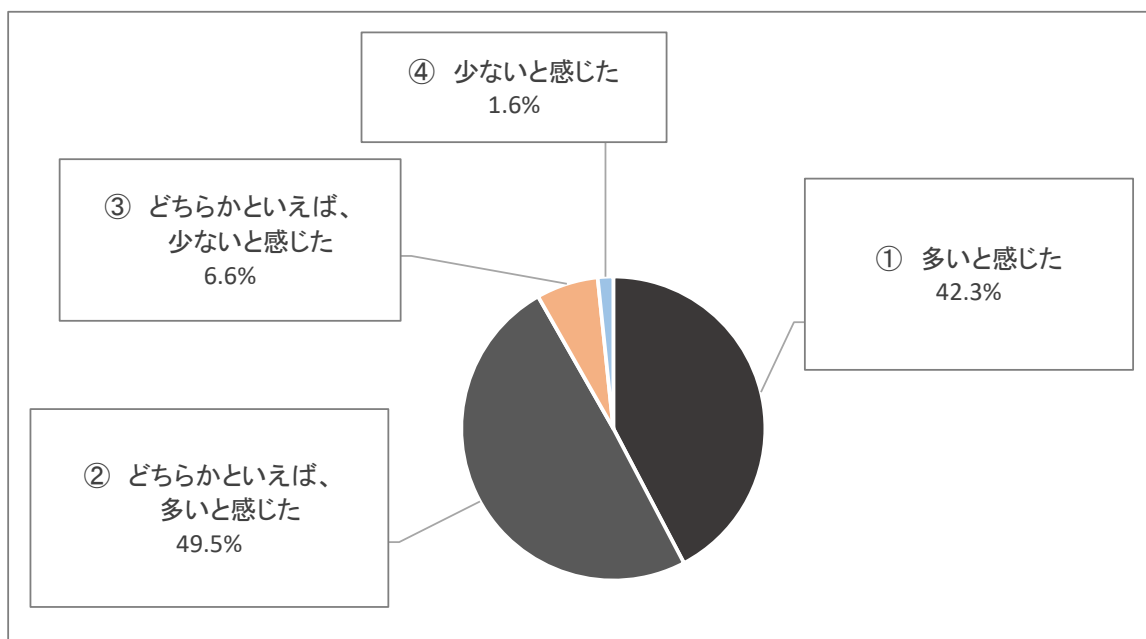


「③知らなかった」(87.8%)が9割近くとなり、「①言葉も意味も知っていた」(6.1%)と「②言葉は知っていたが、意味は知らなかった」(5.0%)は1割未満となった。

問5 あなたは、「13人に1人(7~8%)が性的マイノリティの当事者である」という調査結果について、どう感じましたか。(〇は1つ)

n= 182

	合計		性別				
			10・20代	30・40代	50・60代	70代以上	
① 多いと感じた	77	42.3%	男性	42	3	13	13
			女性	35	1	11	8
② どちらかといえば、多いと感じた	90	49.5%	男性	42	4	13	8
			女性	48	2	26	2
③ どちらかといえば、少ないと感じた	12	6.6%	男性	6	2	1	1
			女性	6	2	2	0
④ 少ないと感じた	3	1.6%	男性	3	0	3	0
			女性	0	0	0	0
合計	182	100%	男性	93	9	30	22
			女性	89	5	39	10

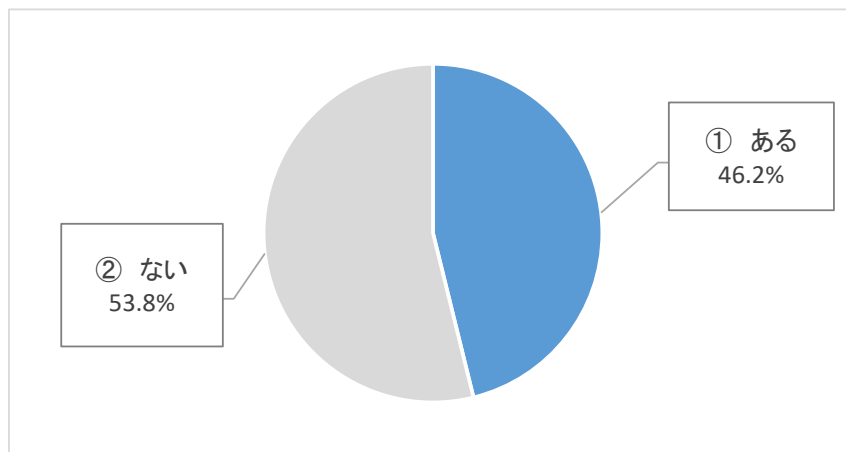


「①多いと感じた」(42.3%)と「②どちらかといえば、多いと感じた」(49.5%)を合わせると91.8%となり9割を超えた。

問6 あなたは、周囲の人々が性的マイノリティについて冗談やからかいの言葉を言っているのを聞いたことがありますか。(○は1つ)

n= 182

	合計		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① ある	84	46.2%	男性	46	8	18	13	7
			女性	38	4	22	11	1
② ない	98	53.8%	男性	47	1	12	19	15
			女性	51	1	17	24	9
合計	182	100%	男性	93	9	30	32	22
			女性	89	5	39	35	10



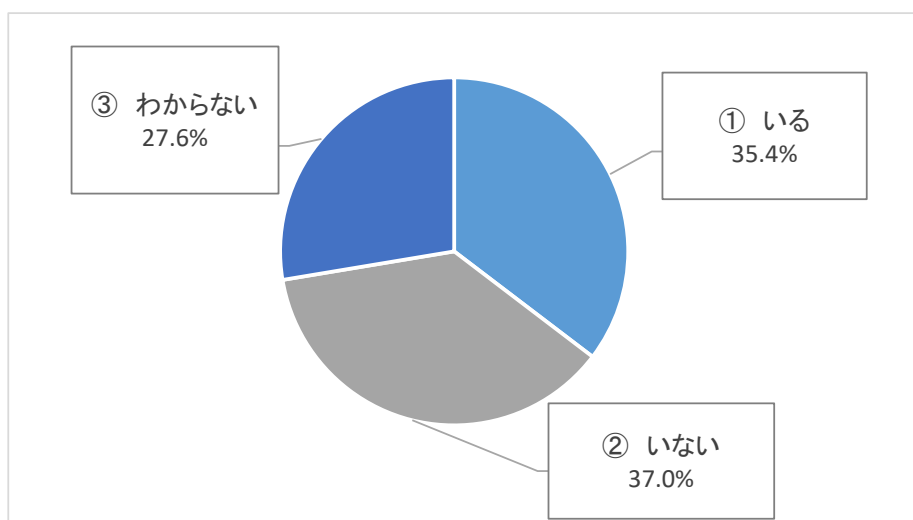
「①ある」 (46.2%) が4割半ば、「②ない」 (53.8%) が5割を超えた。

問7 あなたの周りに、性的マイノリティもしくはそう思われる人はいますか。(〇は1つ)

n= 181

	合計		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① いる	64	35.4%	男性	30	7	13	7	3
			女性	34	4	17	11	2
② いない	67	37.0%	男性	40	0	10	16	14
			女性	27	1	9	13	4
③ わからない	50	27.6%	男性	23	2	7	9	5
			女性	27	0	13	10	4
合計	181	100%	男性	93	9	30	32	22
			女性	88	5	39	34	10

回答未選択: 1



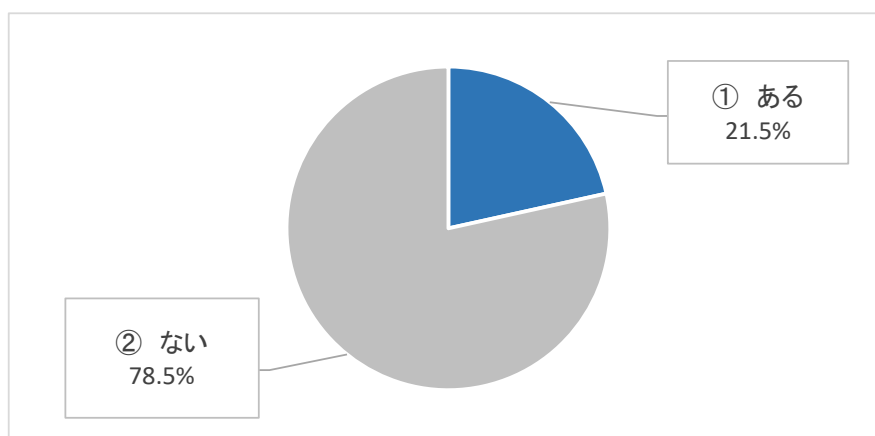
「①いる」(35.4%)と「②いない」(37.0%)が3割を超え、「③わからない」(27.6%)が3割近くとなった。

問8 あなたは、周囲の人々から「性的マイノリティである」ことを打ち明けられた経験はありますか。(〇は1つ)

n= 181

	合計		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① ある	39	21.5%	男性	16	3	9	3	1
			女性	23	2	16	4	1
② ない	142	78.5%	男性	77	6	21	29	21
			女性	65	3	23	30	9
合計	181	100%	男性	93	9	30	32	22
			女性	88	5	39	34	10

回答未選択: 1



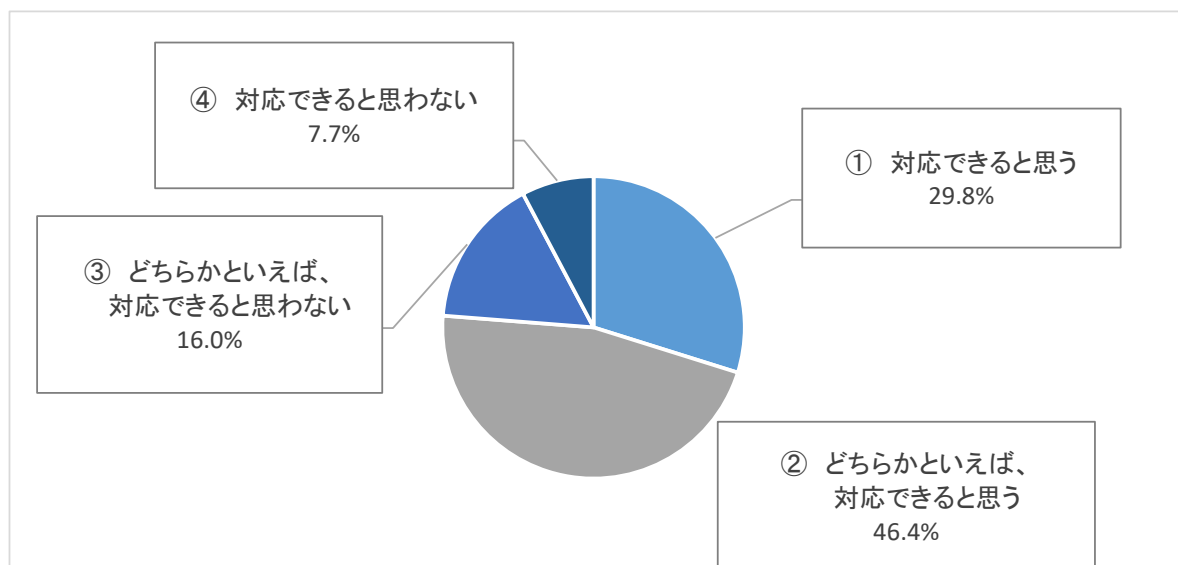
「①ある」 (21.5%) は2割を超え、「②ない」 (78.5%) は8割近くとなった。

問9 あなたは、周囲の人々から「性的マイノリティである」ことを打ち明けられた場合、適切に対応できると思いますか。(〇は1つ)

n= 181

	合計		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
			男性	女性				
① 対応できると思う	54	29.8%	男性	27	3	10	11	3
			女性	27	3	13	9	2
② どちらかといえば、対応できると思う	84	46.4%	男性	42	5	16	11	10
			女性	42	1	19	19	3
③ どちらかといえば、対応できると思わない	29	16.0%	男性	17	1	4	5	7
			女性	12	1	7	3	1
④ 対応できると思わない	14	7.7%	男性	7	0	0	5	2
			女性	7	0	0	3	4
合計	181	100%	男性	93	9	30	32	22
			女性	88	5	39	34	10

回答未選択: 1



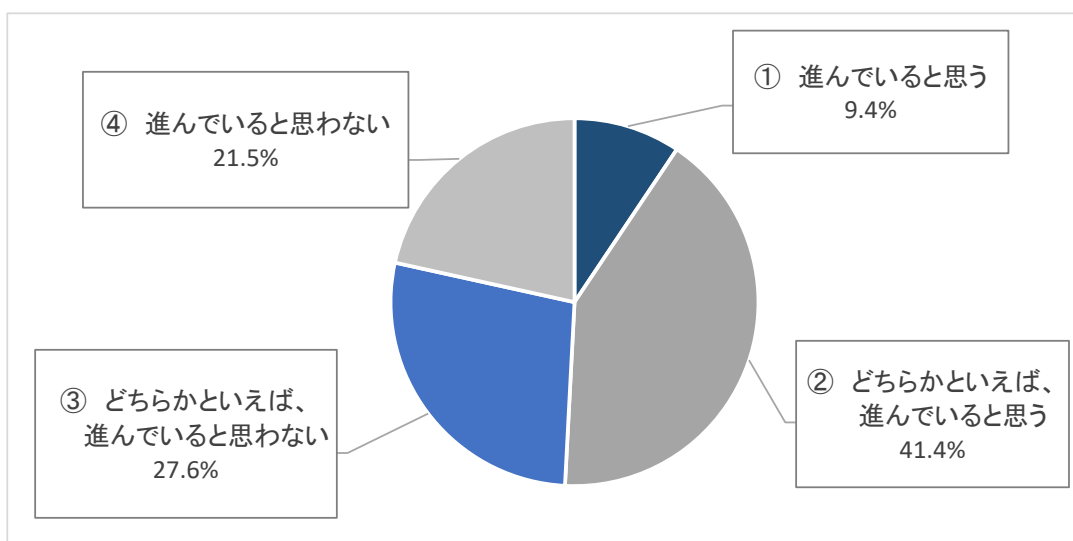
「②どちらかといえば、対応できると思う。」(46.4%)が4割半ば、「①対応できると思う。」(29.8%)が3割となった。

問10 あなたは、性的マイノリティについて、社会全体の理解は進んでいると思いますか。(〇は1つ)

n= 181

	合計		性別					
	10・20代	30・40代	50・60代	70代以上	男性	女性		
① 進んでいると思う	17	9.4%	男性	10	2	3	4	1
			女性	7	1	3	3	0
② どちらかといえば、進んでいると思う	75	41.4%	男性	37	4	17	10	6
			女性	38	1	14	18	5
③ どちらかといえば、進んでいると思わない	50	27.6%	男性	20	1	5	5	9
			女性	30	2	13	11	4
④ 進んでいると思わない	39	21.5%	男性	26	2	5	13	6
			女性	13	1	9	2	1
合計	181	100%	男性	93	9	30	32	22
			女性	88	5	39	34	10

回答未選択: 1



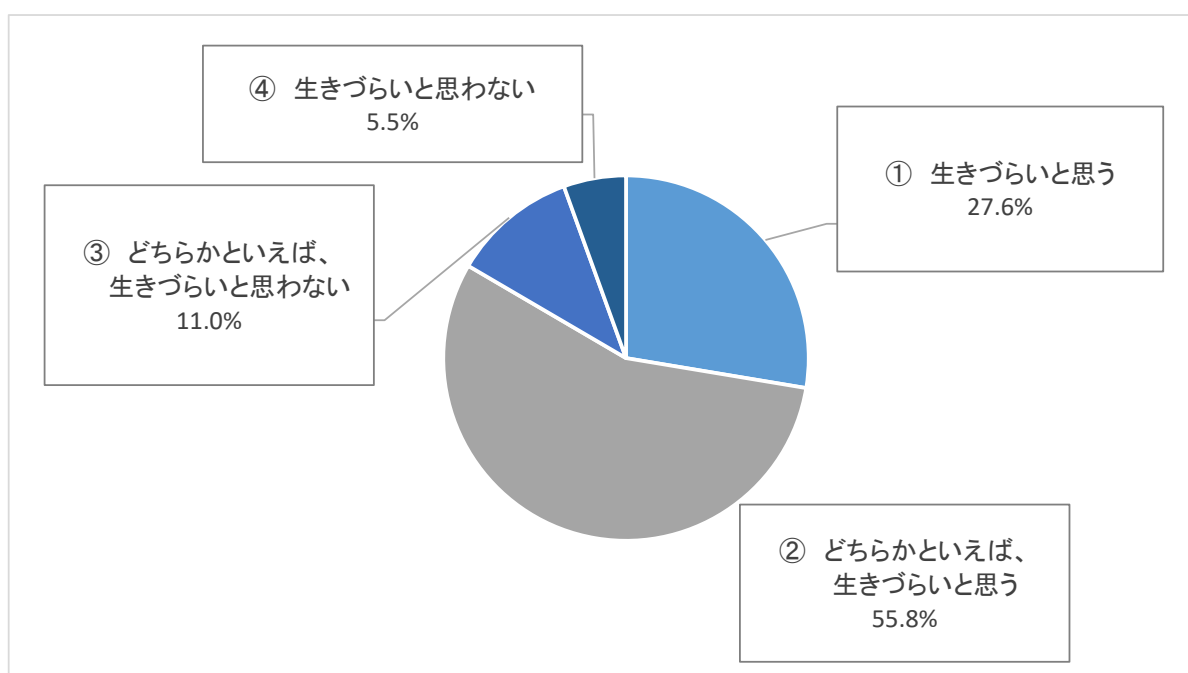
「①進んでいると思う」 (9.4%) と「②どちらかといえば、進んでいると思う」 (41.4%) は合わせると50.8%、「③どちらかといえば、進んでいると思わない」 (27.6%) 「④進んでいると思わない」 (21.5%) は合わせると49.1%となり、それぞれほぼ5割となった。

問11 あなたは、今の社会は性的マイノリティの方にとって生きづらいと思いますか。(〇は1つ)

n= 181

	合計		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 生きづらいと思う	50	27.6%	男性	27	2	9	12	4
			女性	23	2	13	6	2
② どちらかといえば、 生きづらいと思う	101	55.8%	男性	48	4	17	12	15
			女性	53	3	22	21	7
③ どちらかといえば、 生きづらいと思わない	20	11.0%	男性	12	2	3	5	2
			女性	8	0	2	6	0
④ 生きづらいと思わない	10	5.5%	男性	6	1	1	3	1
			女性	4	0	2	1	1
合 計	181	100%	男性	93	9	30	32	22
			女性	88	5	39	34	10

回答未選択: 1



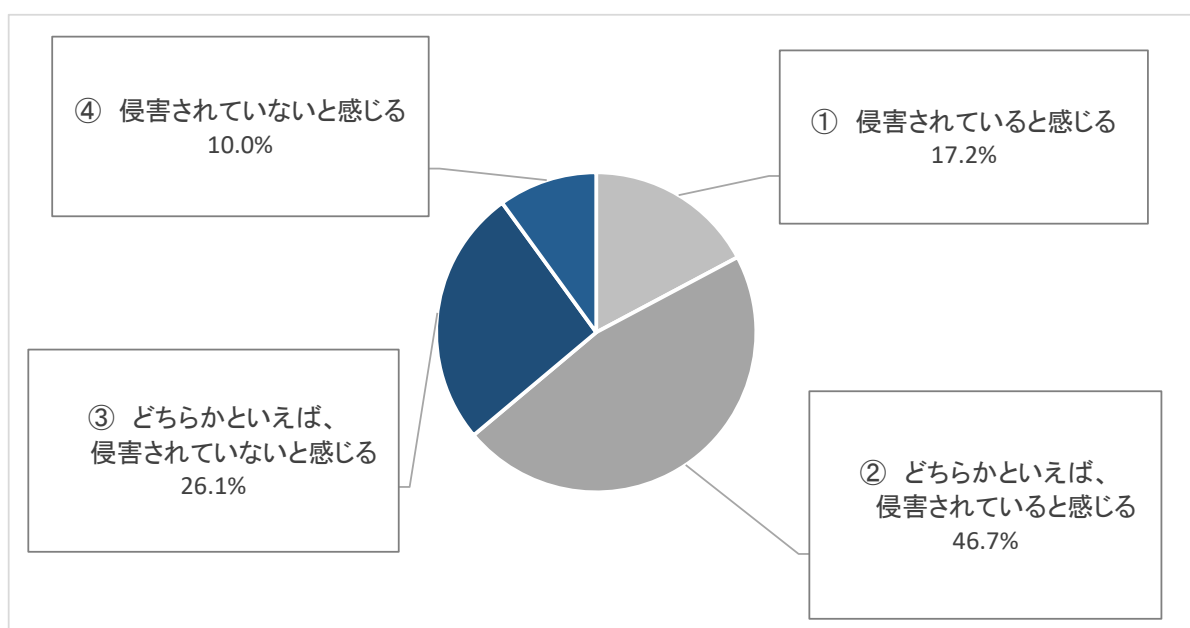
「①生きづらいと思う」(27.6%)と「②どちらかといえば、生きづらいと思う」(55.8%)を合わせると83.4%となり8割を超え、「③どちらかといえば、生きづらいと思わない」(11.0%)「④生きづらいと思わない」(5.5%)が合わせると16.5%となり2割近くとなった。

問12 あなたは、性的マイノリティの人々の人権が侵害されていると感じますか。(○は1つ)

n= 180

	合計		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 侵害されていると感じる	31	17.2%	男性	16	0	5	7	4
			女性	15	0	10	5	0
② どちらかといえば、侵害されていると感じる	84	46.7%	男性	39	3	15	12	9
			女性	45	4	18	18	5
③ どちらかといえば、侵害されていないと感じる	47	26.1%	男性	25	4	6	8	7
			女性	22	1	8	9	4
④ 侵害されていないと感じる	18	10.0%	男性	12	1	4	5	2
			女性	6	0	3	2	1
合計	180	100%	男性	92	8	30	32	22
			女性	88	5	39	34	10

回答未選択: 2



「①侵害されていると感じる」(17.2%)と「②どちらかといえば、侵害されていると感じる」(46.7%)を合わせると63.9%となり6割を超えた。「③どちらかといえば、侵害されていないと感じる」(26.1%)と「④侵害されていないと感じる」(10.0%)を合わせると36.1%となり3割半ばとなった。

問13 性的マイノリティに関する理解を促進するために、あなたが最も必要だと思う啓発活動は何ですか。(○は1つ)

n= 181

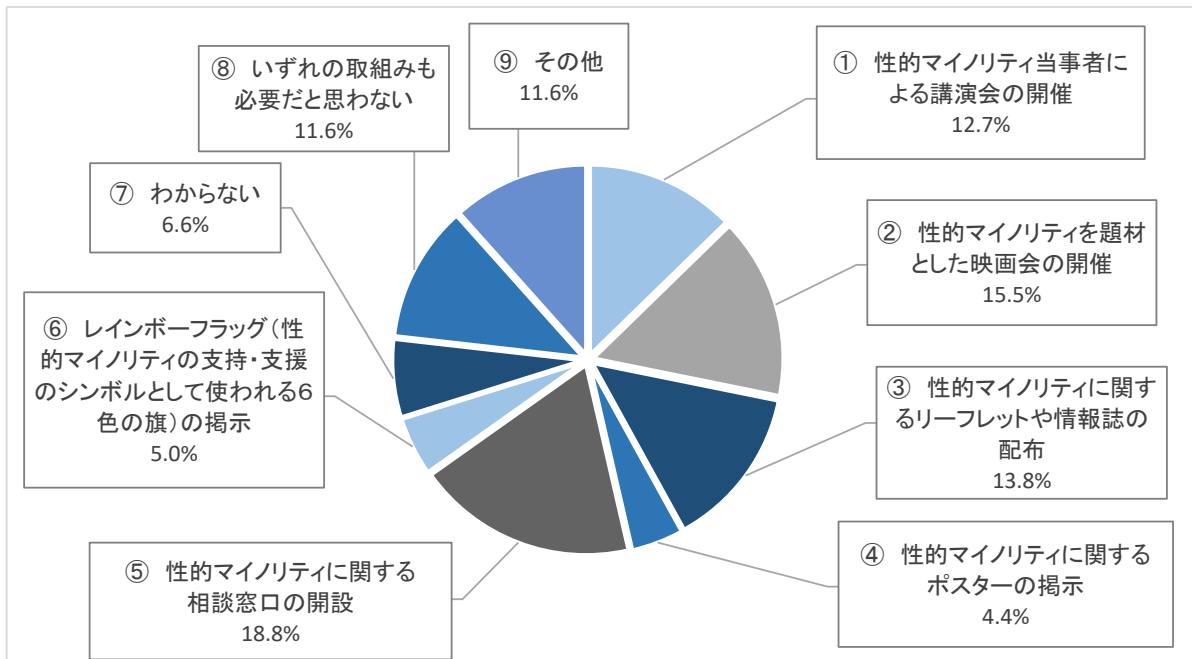
	合計		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
			男性	女性				
① 性的マイノリティ当事者による講演会の開催	23	12.7%	男性	10	0	4	3	3
			女性	13	0	5	5	3
② 性的マイノリティを題材とした映画会の開催	28	15.5%	男性	15	1	7	5	2
			女性	13	2	5	6	0
③ 性的マイノリティに関するリーフレットや情報誌の配布	25	13.8%	男性	15	0	6	5	4
			女性	10	0	4	5	1
④ 性的マイノリティに関するポスターの掲示	8	4.4%	男性	7	2	1	2	2
			女性	1	0	0	1	0
⑤ 性的マイノリティに関する相談窓口の開設	34	18.8%	男性	13	2	2	3	6
			女性	21	0	11	6	4
⑥ レインボーフラッグ(性的マイノリティの支持・支援のシンボルとして使われる6色の旗)の掲示	9	5.0%	男性	2	0	1	1	0
			女性	7	0	5	2	0
⑦ わからない	12	6.6%	男性	6	1	1	3	1
			女性	6	0	3	2	1
⑧ いずれの取組みも必要だと思わない	21	11.6%	男性	16	1	7	6	2
			女性	5	0	2	2	1
⑨ その他	21	11.6%	男性	8	1	1	4	2
			女性	13	3	4	6	0
合計	181	100%	男性	92	8	30	32	22
			女性	89	5	39	35	10

回答未選択: 1

※その他・・・

- ・性的マイノリティに関するテレビCM・ラジオCMの放送・義務教育内での取り扱い。
- ・性別による分類の廃止と、自由な選択権の確保。
- ・同性パートナーシップ条例のような行政の取り組み。
- ・カナダでは公的書類の性別欄などが何十種類も用意されているそうです。実際にそのような実務的な取り組みが一刻も早く取り入れられ、実用されることこそが啓蒙につながると思います。
- ・性的マイノリティを題材としたマンガや、性的マイノリティの方が書いた短編エッセイなどの配付。
- ・性的マイノリティの定義はあっても、その本質（医学的、心理学的、社会学的）が明確にならないと、訴求力がない。訴求点を誤る。
- ・TVや新聞などを通じて、情報をもっと発信すること。
- ・余り大げさに取り上げたり騒がないこと。
- ・他とのバランスを考えると、渋谷区のように広報誌で全面的に取り上げるのも抵抗があります。それほど重大なテーマでしょうか。
- ・初等教育からの啓蒙。
- ・TVドラマ、小説など多くの人にアプローチできる場で取り上げること。当事者以外の人による講演会。
- ・親の教育、科学的な証明。
- ・学校などでの教育。
- ・当事者が社会に適合した行動をとれるようなルール作りと周囲の人々の理解と協力のための率直な意見交換。
- ・理解する。出来るツールが必要。
- ・啓発活動だけでは理解されるまでに何年かかるかわからない。同時に他の活動もしていくべきだ。

- ・「性的マイノリティ」という言葉よりも多様性（人はそれぞれ違う感じ方、考え方がある）の大切さを啓発した方がよいと思います。
- ・性的マイノリティを含む全ての人の人権を尊重する教育社会づくり。
- ・小・中・高の学校で学生に当事者による講演会を開催すべきだと思う。
- ・日常的に情報が当たり前のように流れるようにならないと理解が広まらないと思う。ニュースやノンフィクションなど色々な場面で情報が流れるようにできたらいい。



「⑤性的マイノリティに関する相談窓口の開設」(18.8%)が最も多く、2割近く、次いで「②性的マイノリティを題材とした映画会の開催」(15.5%)が1割半ば、「③性的マイノリティに関するリーフレットや情報誌の配布」(13.8%)が1割を超えた。

問14 性的マイノリティ、LGBT等について、ご自由にお書きください。

- 予想以上にLGBTの割合が多くて驚きました。これまで周囲にLGBTがいらっしゃったことはないと思っておりましたが、気付かなかっただけかもしれないと思った次第です。著名人がカミングアウトする機会が増え、理解が進んできているように思います。私は身体障害者ですが、LGBTも障害者もいるのが当たり前という世の中になり、皆が同等に住みやすい世界になることを願うばかりです。
- 今は世界中でカミングアウトする人が多くなってきたので、段々そういった例も増えて、身近なところから普通に浸透していくと思っています。
- 誰もが何の差別を受けることなく自由に生きて行ける社会に近づく事を切に願っています。
- 人間は、本能だけでなく、脳（大脳皮質）の影響を強く受けているので、性的嗜好についても、色々のタイプの人間が存在するのだと思う。LGBTな性向の人が一定程度、存在するのは、高度の脳を持つ、人類の必然であると思う。LGBTに限らず、少数派人間と多数派の人間が、どう折り合いつけて暮らしていくべきかは、模範解答はない、永遠の課題であろう。
- 徐々に理解も深まりつつあり、オープンに話ができるベースが出来てきたと感じる。社会的にさらに受け入れが広がるためには、国、自治体、企業、商店街などを含めハード面も考慮した受け入れ態勢の充実が必要と思う。さらには、学校教育でも早い段階で問題提起、理解の浸透、啓蒙活動など進めてゆく必要がある。
- LGBTの方に会ったことがない為、悩みも分からず。もっと訴えを広めてもらえば協力できるかもしれない。テレビで取り上げられても身近に思えない。
- 会社勤めをしていた時、健康診断の手配担当でしたが、業務遂行に難儀しました。性別は女性、見た目は男性の社員がいたからです。何度も健康保険組合に意見書を出しましたが、健康保険証の性別表記は廃止してもらえませんでしたし、企業では集団で健康診断をうけさせることが多いので、受診日当日、本人はとても苦労したと思います。
効率重視で個別の事情を無視して対応をする公的機関がまだまだ多いですし、市民全体の理解促進というよりは、制度によってご本人が苦しめられる結果になることのほうが多いと思います。
日常生活では仲間の理解は進んでいてほとんど苦労がないのに、制度や枠組みによって、不自由を強いられている現状のほうが、改善すべきだと思いました。
- 当事者でない、分からない事があります。理解するには、映画等、目で見て考える時間が必要だと思います。
- 私自身、身近な人にはいないので、理想論としてしか語れないが、知人であればその人の性格や人柄を理解できるので、抵抗はあまり感じないと思う。一方で性的マイノリティの人は、抑制されてきた環境の影響からか性的関心の度合いが過ぎる様にも感じるの、知らない人には抵抗を感じてしまうのではないかと、思います。
- LGBTに限らず、差別や偏見のない社会を目指すべきと考えます。SDG sという言葉も少しずつ知られてきたように感じますが、行政が中心となって、実効性のある施策を実施していくべきだと思います。
- 多様性を考える時代です。性的にも多様性があるって良いと思います。LGBTの方々も決してマイノリティではないと思います。
- 自分の周りにいないと思っていますが、もしかしたら気付いてないだけかもしれない。そばで辛い思いをしている人がいるのかもしれない、と思ったりやはり生き辛い、住み辛いことを少しでもラクにしてあげられたら…と思います。
近年タレントさんも増えてきて、以前より偏見はなくなってきたかもしれないけれど、タレントさんと一般人とは周りの受け止め方は違うと思います。それはタレントさんは身近でないからです。日常生活の中でのドキュメンタリーや、映画で周知していくことが必要だと思います。
- 同性婚を認めるべき。
同性の婚姻関係を結ぶ者に養子引き取り権を与えるべき。
国家による乳児の買い取り事業を開始すべき。
- 出会ったことがないので会ってみたい。
- 自分の人生において、また自分の周囲でLGBT等の経験がないため実感がわかない。きっと、本人は常に意識して生活していると思われ、大変であると思う。自分が子供の頃とは異なり、LGBTのTVタレントなどを日常見かけることも増加しているので、徐々に周囲の眼も変化していると感じる。今後は、LGBTが外人と同じように、周囲に居ても当然の世の中になってくると期待している。
最後に提案であるが、なんでも横文字で略することに違和感がある。日本語にすると差別が明確となってしまうことが原因と思われるが、なんとなくわからないようにするのは逆に良くないと思う。英語をそのまま記載するのがよいと思う。

- 自分としては個性の一環だと捉えているので、差別をする気はないのだが、もし自分の子供がLGBTの悩みを持っていたとすれば、少なからずショックを受けるのかもしれない。つまり、頭では個性だと理解していても、当事者意識のあるなしによって感じ方は違うと思うので、義務教育などでもっと取り上げていき、社会全体で価値観の多様性の問題として考えていく機会があると、よりよい社会になっていくのかなと感じました。
- 性的マイノリティ者の存在について、政府や地方行政がどのように考えて進めようとしているのかを国民や市民に明確に提示し、国民や市民に理解するように法律、広報及びメディアを通して通知することが第一段階ですが、まだまだ徹底されていないように感じます。

広報や案内を一度だけでなく、事ある度に国民・市民に通知することが必要です。

若年の年齢でも理解や共感が違っていると思いますが、国民・市民全体が理解・共感する情報を伝える広報等を引き続き進めることが大切だと思います。

- 「発災時における要配慮者への支援」というテーマのグループワークに、LGBTの方が参加されたことがあります。最初は戸惑いを覚えました、社会から偏見や差別を受けていることやそれをなくすための自分の努力が不足していることなどを率直に話してくれました。これをきっかけにこの問題が身近になり、目を背けず真摯に話ができるようになったのではないかと思います。性的マイノリティについて理解をするためには、正しい知識を持つこととこれらの人とコミュニケーションを持つことではないでしょうか。
- 加齢を重ねていくと、だんだん性（セクシャルなことやもの、ばかりでなく、自分の身体や男性女性の性別さえも）というものに対して無頓着（無関心ではないが）になっていく傾向が私にはあり、困ったことなのかもしれない。不謹慎な言い方かもしれないが、要するに、もうどうでもいいのである。叱責を買うことを覚悟で言えば、何でそんなことにこだわるのだろうか。何も区別・区分けする必要もなく、色々な人が入り混じって居ていいのではないかなと思うのだが。もっとも、そういう機会・場面に出くわしたことがないので、まともな意見ではないのかもしれないが・・・
- 区報にLGBTのことを載せたり、学校の講演会などで子どものうちから理解が深まるように広めていったらどうか。子どものうちからカミングアウトしやすい社会に。

- レインボー週間を作って、駅などにレインボーの飾りと説明文を飾ってみるなど。

- 今現在の日本社会で、性的マイノリティであることをことさらに主張するというのは、政治で言えば支持率の低い弱小政党の出した法案を議決もされていないのに法律として運用するに等しいことだと思う。社会的理解というものは徐々に変化していくものであって、特にLGBTなどは個人的な嗜好も多分に含む問題なので、それをことさらに主張して立法して全体に科すようなことは時期尚早ということだ。性的な嗜好はそうしたい人は勝手にそうすればいいだけであって、周りの反応がどうか周りはこうただし同性婚の上の養子縁組、扶養関係、遺産相続などこれまでの家族関係に類する法律などは拡張して作って良いと思う。トランスジェンダーもこれに類するが、男女どちらでもないとかいうのは排除すべき。

バイセクシャル、これは本当に単なる個人的な嗜好であって性的マイノリティの問題からは除外すべき項目だと思う。

- 誰でもが、食べ物に好き嫌いがあるように十人十色だと思います。特別に、意識しないような世の中になれば良いと思います。
- 多様性のある社会の実現のためには、行政側の積極的な関与が肝要。
- 性的マイノリティがどのような立場におかれ、どのような要求をしているのか、裁判例を別とすれば、実際にはよくわからない。行政としてはできる限り少数者の意見をよく聞きながら対応する必要があると思う。
- 言葉を知っているかどうか、理解の促進、生きづらさ、人権侵害など、随分と抽象的なアンケートだった。実際に杉並区で性的マイノリティが直面している課題は何なのか？どこをどう変えて欲しがっているのか？まずこれを調査したうえ、当事者の希望通りに変えるべきかどうかをモニターに問うのが順序ではないか。
- 人間の性は生物学的には男と女以外にはない。もしあるとすれば、本人が自分の性に違和感を持ったりするだけにすぎない。

自分の本来の性が男であるにも関わらず女になってみたり、女であるのに男になってみたりすることは、本人にとっては自由であるとしても社会的には保護するなど特段の対応をする必要はないと思う。個人の趣味の問題に過ぎないとすれば、社会的な対応など必要ない。

たとえばトイレ一つにしても、男性用と女性用に分かれているだけで第三のトイレはない。本来は男性である人が自分は女性だと思っているという理由で女性トイレを利用した場合、問題は生じないのであるか。女性側は理解を示して受け入れるだろうか。こうした現実的な問題にも目を向けてほしい。

人間は本来の性に従って生きるのが自然であって、個人的にそうでない生き方をするものを一たとえ自分の勝手であったとしても一社会的に保護する必要があるのかどうか疑問に思う。当方は自然な生き方に反する生き方を理解しないし、理解できない。説得力のある説明などできないのではないかと。

- 私自身は、性的マイノリティに対し、偏見を持っている。正直「変態」としか思えない。社会全体が何に対しても許容していこうという風潮になっていることさえも違和感がある。もし、自分の家族、特に子供が性的マイノリティであったら、とても悲しいが、認めなくもない。性的マイノリティの方々を差別することはいけないことかもしれないが、「厳密な区別」はすべきだと思う。性的マイノリティの方々を「気持ち悪い」という感情もまた、否定されるべきことではないと思う。
- 今時点で杉並区が独自に対策する必要があるとは思えない。
- 難しい問題だと思います。行政施策も首長の意向で動きます。確固たる方針、方向を条例等で縛ることができるのでしょうか。
- 個人を尊重できる社会にしたいです。同性婚も認め、明るく堂々と人生を送ることが出来れば、自殺など防げると思います。子供を作れなくても養子など育てられない子供を代わりに家族として生きていける社会になればと思います。
- LGBTではなくLGBTQとすべきで、アンケート作成者の認識自体に問題あり。
まずは行政内での、認知、知識向上、勉強会などを重ねて発信すべき。恐らく、行政内の中高年は性的マイノリティに嫌悪感があるのではないかといふかります。
- 性的マイノリティの方も含め、すべての市民にとって人権が守られ、生きやすい社会を構築するため、啓発活動等が今後とも重要であると考えます。
- 性的マイノリティについて、制度面が追いついていない。諸外国では寛容な国も多く、行政として積極的に認めていくべきだ。行政の無理解が区民の認識に影響を与えていると思う。性的マイノリティの方々が杉並区で住みやすいのか何が課題なのかをひとつずつ解決することが、まずやるべきことだと思う。
- 数年前に会社の研修でLGBTの人口比率を聞いて、その多さに驚いた。自分自身もかつては冗談でゲイの話題をよく話したりしていたが、今はもしかしたらカミングアウトできない人が周囲に居るかも知れないとの思いで、そんなことはなくなった。渋谷区の婚姻制度の例や有名人がカミングアウトするなど、徐々に世の中の表舞台に出てこられるようになり改善は確実に進んでいる。
ただし、私自身もしカミングアウトされた時に、従前と全く変わらぬ意識でいられるかという自信がない。個々人の心の中での差別意識などは、長い年月をかけて世代が変わらないと完全にはなくならないと思う。もの心着いた時から偏見意識すらなくなっている環境を地道に作っていくことが、次世代への責任と言えらる。
- 個人的にはLGBTには元々賛同しかねない故に、TVでも見苦しいLGBTタレントが出てくるとすぐにチャンネルを変えている。特に「G(ゲイ)」をテーマにしたドラマなどのTV番組が放映されることに全く理解出来ない。例えば欧米ではTVでも映画でも『タバコを吸うシーン』は今や禁止(昔の映画でのタバコを吸う場面はボカシが入る)されている。この理由は『青少年へのタバコ奨励』と受け止められるから。一方、日本の映画、TVでは旧態依然として『タバコを吸う』シーンが未だに頻繁に出てくる無頓着さと後進性に驚かされる。かようにLGBTのTVや映画も然りで、若者にLGBTを奨励しているかの様に受け取られかねず、或いは若者が興味を示す結果になる筈で大いに懸念している。要すれば、TV・映画でのLGBTドラマなどは放送倫理からも自粛すべきである。他方、LGBTへの差別は当然ながら反対であり、ネットやSNSでの差別をはじめ中傷に対しては、ヘイト・スピーチと同様に、罰則規定を設けて厳しく対応すべきである。
- 昔はそれを芸にしたり、避難することが普通という風潮があった。現在の30代くらいまではそういった幼少期を過ごしているからこそ、13人に1人が対象者という理解もないからこそ、傷つけてしまっていることが多いと思う。どの正式書類にも男女を記載する欄があるし、幼稚園・小学校でも男女で分けて何かをすることが多いので、途中から性に関して考え方を変えていくことは、なかなか浸透するには困難かと。だからといって、何もしないわけにはいかないからこそ、まずは義務教育内でそういった教育が必要なんじゃないかと思う。
- TVでLGBTの人たちの生の声や、ドラマなどをよく見るようになったので、身近にいてもおかしくはないなと思うようになった。しかし、知り合いにはいないので、やはりまだ特別な事として接してしまうと思う。自分の中の普通が異性を好きになるものであり、普通じゃないことを見たり知ったりした時には違和感があると思う。しかし、LGBTの人は何か悪いことをしているわけではないので、生の声を聞いていき慣れていくのがよいのではと思う。また、子供にもいろいろな性があるものだと知ってもらいたいと思う。子供の頃から多様性があることを知っておくのは大事だと思う。しかし、高齢者への理解はなかなか難しいと思う。

トイレが男性、女性、誰でもOKの3種類あるところがあり(車椅子用とは書いていない)、LGBTの人も使いやすいのかなと思ったことがあり、公共の施設のトイレがそうであれば良いかなと思う。

- 性的マイノリティに限らず、少しでも主流とズレた異質なプロフィールや生き方、特徴などは差別の対象にされがちです。

自分を大事にすることを忘れずに、他人を尊重することの大切さをどの年代も学び直す必要があると感じています。

- 性的マイノリティ、LGBTについては近年かなり語られることが多くなってきたが、今後もこれらの人々は増えていくと考えられ、色々な場面で語られることも益々多くなっていくものと思われる。社会の変化に伴ってこれらの人々が不利益を被ったり、生きづらい社会にならないよう、諸制度・物理的なものの改良が望まれると思う。
- 当事者の悩みなどを否定せずに聞いてあげる支援が必要だと思う。
- 状況の改善のためには、理解や同情心の涵養（かんよう）が大切だと思う。そのため、本来は講演会や映画会が最もインパクトが大きいと思われるが、そもそも関心のある人しか来ないので現状変更の効果は限定的であろう。従って、当初は広く伝わり、読みやすく、かつ一定の深みを持つマンガや短編エッセイなどの使用が効果的であると考えます。
- 「人権」とあるが、「区別」と「差別」を見極めねば、道を踏み外す。

何でもかんでも“自由”“平等”とはならない。本人の意志ではどうにもならない（本人の努力ではどうしようもない）ことで、扱いの差を生じさせてはならない、ということである。

例えば、女性は子供を産む。故にその部分での扱いの差は当然生じる。“区別”である。

※ 男性の“育休”は“平等”が行き過ぎた感がある。子供の健全な成長には母親の愛情（目を見、声を聞き、肌に触れ→人間脳）が必須である。（嘗て、山口組の顧問弁護士が「母親の愛情を受けて育った者は、ヤクザにならない、否、なれない」と）

また、「同性婚」という言葉があり、婚姻を認めるという。問13の意見同様、医学的に認定されているのか？もし、偽って登記すれば税など不当な利益をえることになる。更に、「子孫を残す」という観点からは、社会的優位性は低くなる。公的“区別”はやむを得ない。それは社会を形成して生存する“群れの掟”である。

一方では「逆差別」という者もいる。「すべからく平等に扱え」という者もいる。そんな観念論・形式論では前に進まない。

表層的・現象的な見方ではなく、もっと深く探求して皆が納得いく本質的説明をしなければ、社会に根付かない。

- 啓発活動を行うこと自体が性的マイノリティの生きづらさにつながる危険性もあると考えるため慎重に行うべきだと思います。
- 子供に性的マイノリティや、LGBTについて質問された時に理解できるように説明できるか自信がない。子供と一緒に読めるようなパンフレットがあるとよい。

また、未就学児の頃から、身体的な男女別で枠をくくってしまわないような教育も必要だと思う。

- 最近ではメディアでも頻繁に取り上げられているので以前に比べれば関心も高まっていると思うが、身近な人の場合どの様に受け止めれば良いのか自信がない。
- 米国でレインボーフラッグを目にする機会があったので、違和感はありません。多様性のひとつと思っています。
- ゲイのカップルの毎日の暮らしを、食生活メインに展開するテレビドラマを見ました。ドラマではありませんが、ゲイの二人が楽しく生きている様子はほのぼのしています。昔より、価値観の多様化が広がっている時代です。人に迷惑をかけず、法律に触れるような悪いことをしなければ、後ろ指を指されることはないと思います。

私は、性的マイノリティの方が、どのようなことで困っているのか、人権を侵害されていると感じているのかを知りたいと思います。そして、どうしたらこれらのことが、軽減し、解決できるのか、みんなが幸せに暮らせるよう一緒に考えたいと思います。

- 人は「初めて」や「違うと認識するもの」に恐怖からくる差別の感情を持ちやすく、色々な人がいることを知ることは必要かと思います。すべてに寛容になれるかは個人の問題ですが社会、公的に公表することは有効だと思いました。

- 正直に言えば、性的マイノリティは社会にいればさほど大きな問題である実感は無い。学生迄は男女別で行動する場面が多く、規則での服装や持ち物が明確である。また当事者も成熟しきれていないため、違和感があることも多いと思う。

社会人になれば、生来の性別に則った行動を取る（トイレ・更衣室等）のは致し方無いであろうし、自分らしさを出しても周囲は咎めたりしないで見守るのではないか。

東京都の人権学習の教材で、LGBT等が新たに持ち上げられて障害に関する記述が大幅に削減された。時代の流行に乗ったかたちなのかもしれないが、優先して人類が考えなければならない差別問題はLGBTなのだろうか？周囲の援助・理解が無ければ生活すら危ぶまれることもあるのは障害者である。

生活や生命を思うと、LGBTはちっちゃい問題に感じられてしまう。

- 私の周りに1人います。その方の周りにはたくさんいてみなさん生き生きと生活しています。わたしはその方たちに全く偏見がなく、むしろ好きです。自身と違った考え方をしており、仕事ではとても感性がよく、成績も素晴らしいです。きっとどちらの感性もあるので相手の気持ちがわかるのだと思います。私の子供には絶対に偏見を持って欲しくありませんし、大事にしていけるよう環境を整えていくことが大切かと思えます。

小さな頃からそのような環境で育っていけばそれが大人になるまでに普通の環境になるので今後はそのように環境づくりを地域・国で積極的にやっていくべきだと思います。はやく同性婚も可能になるように願っています。

- 以前は全く話題にもニュースにもならなかったが、人権問題がクローズアップされるようになり、社会も関心を持たざるを得なくなってきた。

欧米や先進国ではこの問題に真摯に取り組んできていることは報道等で知っているが、自分を含め日本はこの面では明らかに後進国である。

人には様々な点で多様性があり、これらは尊重されるべきだと思う。

人の内面をえぐるような言動や揶揄は戒めなければならないが、なにをもって啓発の方策とすべきか難しい。

ペーパーに書き込んだものはなかなか読んでもらえず、理解を進める手段としては効果に乏しいと思う。

政治が関与を深めマスメディアが露出度を高めていけば、国民の共通項となっていくのではないのでしょうか。

- 性的マイノリティは障害のように喧伝される（時にそれが当事者からの発信として）場合が散見されるが、それに行政、ひいては区民が振り回されることは逆の差別につながる。性的マイノリティは障害ではなく趣味。特別な配慮は却ってお互いの住みづらさや生きづらさを増長させるので良くない。どうしても配慮が必要な場面が出た場合は、ヘルプカードのような仕組みでいざという場面でそれが分かるようにすれば良い。とにかく行政等による過剰な性的マイノリティ対策は、そうでない人たちへの逆差別に繋がるので不要であるし、大反対である。

- 該当される方にとっては、真剣な問題だと思いますが、一般的に自分の生まれ持った「性」に従うのが文明人であると思います。よって、教育機関での、個別のメンタル指導等で、本人に理解させる教育が必要ではないか。

なんでも思った通りになると思うのは、間違いであるというのが、私個人の意見です。

- 7-8%は、マイノリティの数字ではないと思います。

- デリケートで丁寧な対応が必要だと思います。まずは啓発活動により、存在をしっかりと認知していくことが大切だと思います。

- 以前タイに駐在していたことがあるが、タイは国全体がLGBTに対して寛容で、特殊なサービス業出なくても、普通に企業で就職でき差別も受けない社会が構築されている。実際当時勤めていた職場でもそういうスタッフがいたが、全く問題なく働いていた。

日本は違いに対して非常に敏感で、同調圧力が強い。まずは学校教育で違いを認める教育を行い、これから社会に出ていく子供たちをフォーカスするのが良いと思う。

とは言っても、ある程度の年代以上のマインドは急に変わらないのが難しいところだと考える。企業であれば、これに関するルールの整備、啓蒙を行い、マイノリティの人々と共生できる社風を醸成すべき。

行政がそれを支援することが必要だと思う。区は個人にアプローチするより、あるまとまった集団にアプローチするのが効果的だと思う。

- 大人の偏見が子どもに与える影響を危惧するとともに、小さい時からの教育が重要だと思います。
- 現在では「性」に関する話題をニュースでも取り上げる等、以前に比べればオープンになりつつあると思うが、当事者にとっては、まだハードルの高い問題が多いのではないか。性別だけでなく、障害者差別や貧困差別等なくなるべきという総論と、それを解決できない具体的な各論がないことが、先に進めない現状だと感じる。
- 騒ぎすぎだと思う。普通にしていれば良い。
 そうしてお互いを認めていけば良い。
- 性的マイノリティとかLGBT等について、取り上げることが最新の取り組みであるかのように騒ぎすぎるように思います。
 このアンケートで取り上げるべきテーマとしても、もっと重要な事項があるのではないのでしょうか。
- 性的マイノリティ問題の取り上げ方が、現在は特殊（極端に言えば差別的）な問題として、取り上げられているように感じる。障害者問題もしばらく前までは、差別的に見る目が多かったように感じるが、パラリンピック等で明るく、健全なムードで扱われて来ていると感じる。性的マイノリティ問題も、特殊な問題ではなく、健全なムードで取り扱われるように、特にメディア関係者にはお願いしたい。
- 性的マイノリティ、LGBT等に対する偏見は未だにあるように思います。杉並区として、ポスターや講演会等を通じて性的マイノリティに関する理解を促進していくことが必要だと思います。
- 周りの人の理解、尊重が必要だと思います。
- 人それぞれ心の在り方は違うと思うので、多数派だからこうあらねばならないという事で少数派の方にとって生きづらい世の中にしてはいけないと思います。多数派には気付けない生きづらさがあると思うので上手く少数派の意見を聞いて、積極的に発信してもらい、少しでも寄り添いあえれば良いと思います。
- ひと昔前に比べ、性的マイノリティの方を主人公にした映画、ドラマ、小説やコミックが増え、若年層を中心に理解が進んできていると感じる。しかしながら非常に残念なことに、多くの性的マイノリティの方が、職場や学校、家族や友人にもカミングアウトできない現状にある。数年前の一橋大学の自殺事件に象徴されるように、安易な告白は「破壊」に繋がりがかねない危うさがあるからだ。少数派の声に耳を傾ける人は多くない。しかし、感動する芸術作品には多くの人が興味を示し、触発を受ける。一昨年大ヒットした英国のミュージシャンの自伝的映画も性的マイノリティを主人公にした作品であった。理解や関心を引き出すのではなく、意識しない間に受け入れる素地を作る方が真の理解に繋がっていくものと考えている。
- 今回のアンケート文書を読むまで、あまり深く考えたことがありませんでした。TVなどを通じて「そういうものか」程度の理解で、周りに悩んでいる人はいない、と安易に考えていたような気がします。
- ポーっと生きていたように思い、反省しています。
- 今の日本ではLGBTを理解することは難しいことかもしれません。しかし、渋谷区などの活動を見ると進んでいるなど感じることも多いです。昔より理解をしようという前向きな考えは増えて来ていると感じますし、近い未来は東京からマイノリティの理解を発信していくのだろうとも感じています。しかし現状はまだまだで、マイノリティは生きにくいとは感じていないものの、どこか寂しい気持ちを持っているとは感じます。直接言えないもどかしさ、また誰にこのことを打ち明けて良いのか、わからないと思います。出入国管理法が施行され都心を中心に外国人がますます増える予想がされますので、外国人とともにマイノリティの理解を広める対策が良いのではないのでしょうか。外国は日本より、はるかにマイノリティへの意識が高いと思うからです。
- 身の回りにいない（気が付かないのかも知れない）ので、観念的には理解できるものの実際に身近に遭遇した場合に、正直に言うとおそらく多少の違和感があるのではないかと思います。社会通念上、もっと広く知られるようになることが大優先であり、LGBT該当者が隠れて生活するようなことは無く胸を張って生きられるような社会にする必要があります。
- 多様な性について、若い人たちは理解や受容が高いと感じるが、親の世代にはまだまだ難しいのが現実のようだと思う。ただし世代が変わってくればおのずと世の中全体の考え方もかわってくるはずなので、今の取り組みを今後とも続けていくことが必要だと思う。

- 人間の性についての本質を理解していないことが性的マイノリティの諸問題を引き起こしている主因ではないかと思います。

人間の性にも、いろいろな性があり、それがいろいろな性格の人、人格を創っていること、そして、いろいろな性格な人がいることによって多様性の豊かな人間社会が構成されていることの理解に思い至るべきだと思います。その多様性の両端に男性、女性が位置付けられていると思います。多様性のない同じ性格の人間が集まった社会は考えるだけでも発展性のないおそろしい社会ではないですか。今までの社会では、人間の本質を誤った教育によって押し曲げられ、いろいろな性が、隠蔽されてきてしまったように思います。人間も生物であり、その性には多様性があり、人それぞれ異なった性格を持ち、集まって豊かな社会を作り上げていることを小さい頃から教えてゆく必要があると思います。

- 男尊女卑という文化が根強い文化のなかで性差別はある。男の役割、女の役割という性による役割を強いられる傾向が未だ強い。生物学的に男女の差があるのであるから、差別ではなくあくまで区別が正しいのであり、性ではなく個人の特徴を活かすことを前提とした「役割」を担うことのほうが本来スムーズである。特徴による区別により何かしらの乖離が生じた場合は常に他による補完関係であることが社会を成り立たせるのに必要な力であると考えます。

そして、多数決ではないのでマジョリティだから良い、マイノリティだから悪いということではない。性的マイノリティは単なるひとつの特徴であり、それは性ではなく人間としての特徴に過ぎない。

ただ、男女だけでもまだ差別があるなかでLGBTの人間はまだまだ生きづらいと想像する。企業や自治体がLGBTに対応する施策を講じているので少しずつは生きやすい社会になるとよい。法律や制度は人間がよりよく生きていくためのモラル、ルールであるべきで、マジョリティを優先し、マイノリティを排除すべきものではない。

行政は遅れていても、社会にオープンすることが容易であれば精神的に楽になる。そのためには、いろいろな人間が世の中に存在することを認めることこそが大切なことである。学校教育や家庭で「他を認める力」を育てることが重要なのだと思う。

- 性的マイノリティに限らず物事の多様性を認める事が、全ての偏見・差別の解消に繋がると思う。
- 年々増えてきていると思うので、もっと理解しないといけないと思いますが、実際にどうするのがよいか分からない。知識も教わる環境もないので、無関心にしてしまっていますが、本当は周りももっと考えて対応してあげないといけないと思います。
- 現代社会の進化？
- 今回初めて知りました。今後勉強したいと思います。
- 昨今、メディアが過剰に性的マイノリティを取り上げることにより、理解が不十分な人を過剰に叩いている風潮が感じられる。これに伴い、性的マイノリティに対してかえって反発や嫌悪感を持つようになった人も増えたと感じているので、このままいくと性的マイノリティの人々の権利は認められにくくなると思う。やはり、権利を認められたければ結局は相手の権利や主張を認めつつ、自分の主張を行っていくことが大事であると思う。礼節が出来ていない人物の主張はたとえ正しくても認められることは無いということをマイノリティの人々はわきまえることが必要であると思慮する。
- 多様性を認めることで、みんなが少しでも生きやすい社会にすべきだと思います。

- 1. 何故杉並区が此のテーマでアンケートまでするのか。

もっと大まかな女・男の2分でさえ、男社会の現状がある（社会の扱いが日本は最低）

3. 誰が誰を好きになろうがかまわない。

4. 好きとか嫌いとかは自由。

5. その人たちが何に悩んでいるのかわからない。外見か？（人間としての大きなことに悩んでください、と言いたい。）

6. 歌舞伎役者？宝塚？は（女役、男役）そういう分類なのか。

7. 今回のアンケートのテーマについて私は無知です。

- それぞれの個性だとお互い認め合って暮らせる社会にしたいと思います。
- 身近な問題として考えた事はないのですが、最近ではゲイの恋愛をテーマにしたドラマも多く、性別関係なく人として大切に思うことも理解できるようになりました。ドラマの力は大きいと思います。ドラマや映画で明るく描かれていれば普通の事として次第に浸透していくのではないかと思います。
- 知人にLGBTの方がいらっしゃいますが人生に不自由なくすごしておられます。そのためこういったLGBTをあえて議題に出すメリットが知りたいです。
- もし、身近に性的マイノリティの人が居ることがわかったとしても、それはさしたることはありません。左利き、AB型と同じようにその人の個性です。ですが押しつけられるものでもありませんから、必要以上の理解を区民に強いるのは他の区政との兼ね合いからも程々にして欲しいです。渋谷区内で働いていますが、区報の特集で性的マイノリティの方達が見開きページ、特大写真入りで紹介されていますが、彼らはそれ程英雄なのかといつも不快に思います。
- 性的マイノリティの性を選ぶ権利（進学や就職において）やLGBTの結婚など、法的に認められるようにすべきだと思います。
- 海外生活が長かったので問題の所在は認識。日本人に関し13人に1人が問題を抱えているとの認識は無かった。杉並区の取り組み内容について積極的に広報に取り組んでいただきたい。
- この社会問題について考える時、私の年代では「部落社会」の差別的意味合いで想起される。民主主義の成熟で招集者の人権侵害が表面化して公私ともに啓発の公私共に啓発の高まりは増してきていると思う。現代の自由主義の世の中では当事者側の透明性ある主張を期待したい。また行政区でも市民権法制化も必要かと思う。
- 性的マイノリティ、LGBTというカテゴリー以前に人としてどうか問われるべきだと思う。人としてきちんとしていれば、いずれの取り組みのも不要。築いた人間関係の中で理解する、理解されることが自然だと思う。
- 難しい問題ですが、多様性ということは大切にして尊重していくべきだと思います。今回のテーマは考えるのにより機会でした。ありがとうございました。
- 知人のお子さんがまさに「レズビアン」ですが、お二人とも看護師として子供さんは養子を迎え、可愛い女の子がいます。お二人共、お子様もごく自然のすてきな家族です。いつの時代でも前向きに生きていく事が大切です。周りの目を気にすることもなく家族もその娘さんの話に耳を傾け、そして赤ちゃんまで何の垣根もなく皆で大切に大事に育てておられます。素敵なお家庭です。良いのです。色々な形の方々が暖かく助け合って生きることが大切なので。ちなみに知人のお嬢さんは男性の女世帯主ですよ。りっぱな男性です。以前はかわいらしい女の子でしたのに。素敵に変身しました。
- 20代の頃に語学学校でゲイの活動家と知り合いになった時は少し驚いたが、現在はその様な人がいても全く普通のことと感じる。新聞やテレビなど古いメディアでも日常的に取り上げられているがそれよりもネットを中心とした情報の拡散の影響が大きいと思う。ゲイは性的思考を表に出さなければ特に目立つ存在のように思えないので、そういう人がいるということを小学校くらいから教えていくのが理解促進に最も有効なのではないか。これはレズ、トランスジェンダーに関しても同じだと考える。
- 個人的な意見になりますが、性的マイノリティも個性の1つだと思い、特に気にすることなく生活をしています。特別扱いすることなく2人の人間として付き合っていけばよいと感じています。ただ当事者間の子供などの問題は少しだけ繊細なことだと思い、多少難しい話だと感じます。
- ・LGBTにインターセックス、アセクシュアル、クエスチョニングを加えて「LGBTIQ」の認知促進が必要。
- ・同性パートナーシップ制度を杉並区も導入するべきだと思う。
- ・日本は元々性に対して寛容な社会であることも、教育の場で取り扱うことも重要だと思う。
- 身近な問題として教育分野で積極的に取り組む必要があると思う。

- 私は杉並区在住でも割りと中野区よりのエリアなのですが、この辺はとても多いです。カップルもとても自然ですし、何より楽しそうな様子を見ると素直に良いなと思います。性的マイノリティ、LGBTの方はAB型と同じくらいの確率でいらっしゃるといいます。今の若者は偏見もあまりないと思います。あとは法的に婚姻が認められたら相続なども含め人権が侵害されなくなるのではと感じています。人をそのようなことで排除することのない世の中になるといいですね。
- 4月末にLGBTのパレードを渋谷で見かけました。毎年やっているものとは知っていましたが、初めて実際に目にしました。多様性を重んじ尊重し理解できる世の中になってほしいと強く思います。
- 最近ではマスコミ媒体などを通じて「性的マイノリティ」LGBTなどの理解や認識は進んできていると思います。都会では性的少数者については特に差別の対象になっているとは思いませんが、地方ではまだ生きにくい社会になっているかもしれません。性的少数者も人として自然な事なのだと、学校教育の中でも学んでいく必要もありと思います。
- 上に書いてある運動に押しつけがましい感じを受ける。マイノリティの人達が本当に望んでいるのだろうか。マイノリティをバカにする人種はほかの事でも自分と考えが違う人をバカにするのだと思う。テーマをこれだけにしぼっても駄目なのは。人は皆同じでなくてもいいし、自分と違う考えを尊重することを教えるべきでは。
- 従業員に性的マイノリティかと思われる者がおり、本人的にというか、一般的に知ってもらいたいのか、知られたくないのかわからないので確認しづらい。結果によって不利に対応するつもりは全くないものの、このような事が相手を傷つけたり、傷つけなかったりするものなのかわからないので、会話に性的マイノリティに関する事柄を無くして接している。この対応が正しいのか誤りなのか悩んでいる。
- ・子供の頃（10～15年前）は自分のまわりにはいるとは思わなかったのですが、最近ではまわりに多いと思っています。
 - ・見た目でなんとなく「そうなのかな？」という人はいますが、特に何とも思いません。そういう考えの人がいることが当たり前だと思う気持ちの方が大きくなっています。
 - ・私は、0才と2歳の子供がいますが、小学校や中学校の時に自覚したら、親にも友達にもオープンにして欲しいし、本人が生きづらくない社会になってほしいので教育の中でしっかり取り入れてほしいと思います。
- 「LGBTの人を受け入れるか、受け入れないか」という議論は1～2年のスパンではいろいろあるでしょうが、10年、20年というスパンで考えれば必ず受け入れられるものだと思います。ならば早くからそのための法整備（条例整備）をすることで優秀なLGBTの人が杉並区に移り住み優秀なリーダーが生まれ、優秀な支援団体も生まれ、優秀な取り組みが杉並区に生まれると考えています。
- 著名人でも性的マイノリティであることをカミングアウトし、広く世間に知られるようになり、理解もたいぶ進んでいるよう思われる一方、公共施設の利用等についてはどのような工夫がされているのか、また、不備があればどう対策を取っていけばいいのか話し合われる必要があるように思われる。
- 学校、社会、公共施設においても、“男女”区別される事が当たり前となっており、そのような環境が生きづらさにもつながっているのではないのでしょうかと思う。“性”にとどまらず、色々な個々の違いを認め、“障害”などとせず、色々な人がいる事を受け入れて行ける世界になると良いと思う。言葉だけが広がることで、偏見も生まれてしまう事もあるし、（逆に理解してくれる人が増える事もある。）“人と違う事”をさがそうとする現代の日本は生きづらい人が多いような気がする。
- ・青年時は「男女（オトコオンナ）」と揶揄された2人の友人がいた。彼らは折に「女」の仕草を見せたが、一方草野球で共に汗まみれになったことからか、平常の付き合いを体験してきた。違和感、差別感情は湧かなかった。
- ・30年前、新宿の某病院に入院時、同様にゲイがいて食事後のフリータイムでは人気者になった40才代の男がいた。外観、風貌とは大違いで「女」化、整形手術を重ねた「人間」に共感できる存在と実感した体験あり。周りに面白半分の野次馬もウロついたが、頒布踏み込めば性的マイノリティとの壁はうすれていくと実感し、現在に至る。
- 多様性を認める社会になっていくといいです。
- 学校レベルでも教育していき、社会全体が自然に認識すべき。

- 言葉や人権として話されるようになったのはここ数年だと思うが、何百年も前よりこの問題はあったのだと思う。それぞれであって良いと思うが、必要以上に認めるという事はどれほどの重要性なのか。理解できない。多様な時代のひとつの問題として考え、認める事でよいと思う。
- ドラマや映画の影響もあり、私自身は特に変わった事とは思っていない。ただ身内（例えば娘）にそういった人がいた場合、少々戸惑うかもしれない。
- 一昔前は病気だと思われていたが、この頃主張する人が多くなり、病気の基準から消されたと聞きました。その人がそういう自分を受け入れてほしいと思うなら受け入れてあげた方がいいし、自分は病気だから直してほしいと思うなら直してあげた方がいいと思うし、よくわかりません。しかし、実際のところ、公衆トイレに見かけが男の人が入ってきたらゾッとするし、逆に見かけが女だけど男の意識の人が入ってきたらいやだと感じます。如何すればいいのでしょうか。
- 以前はオカマ、レズ等はただ単純に気持ち悪いと思っていましたが、ここ数年、性的マイノリティ、LGBTへの理解を促進するためのテレビなど（Eテレとか）を見て、少しずつですが考え方が変わってきました。ゲイ、レズビアンの人、イコール気持ち悪いではなく、そのような人もいるのだ。個性なのだ。
- 性的マイノリティの方が13人に1人というデータに多いと感じましたが、これまで周りにそう感じる方がいませんでした。これは、まだまだそのことを公にすることができず隠して生活せざるを得ない方がたくさんいるからではないかと思いました。今でこそLGBTという言葉や多様な性を認めようという考えが少しずつ広がってきていますが、年配の世代ではそのような情報がなかった為、偏見を持たれている方が多いように思います。「多様な性がある」という事を小学校の性について勉強する時にも組み込んでいたり、もっともっと情報を広げる活動が必要なのだと思います。
- 多様な人たちが分け隔てなく過ごせる社会になると良いと思う。
- 80才近い私でもL、Gの言葉は子供の頃から知っていました。これは身近に居るというのではなく、芸能界での事で表にて見る事はありませんでした。但し、最近、区内等で婚姻等も許可と伺い、古い人間と思いますが、公の場まで知られる、知る、報じるのは理解できません。子供の頃から親の驕的な事も考えられるようにも思います。
- 海外ではだいぶ意味の浸透と理解が進んでいるという事は数々のメディアを通して知っていました。日本でもそれに倣ってイベント等で啓発活動が行われているようですが、私の身のまわりではまだまだLGBTに対する差別的な意識を持った人が多いように感じられます。大切な事は性的マイノリティやLGBTに限らず、様々な「ありかた」に対する理解なのではないでしょうか。多数派が全て正しく、少数派が誤っている、そんな社会にはなってほしくないと思います。
- 社会全体で知識を深め、理解してゆくことだと思います。最近は新聞でも多く取り上げていますので理解が少しずつですが深まってゆくと思います。
- テレビで観たり、本で流し読みするぐらいで時間はない。先天性のものであり、当事者はお困りでしょうね。皆で理解し、接する事が大切だと思う。内容を知り、対応したい。アライになり支援したい。
- 自分としては全く偏見はありません。何が問題なのかかわからないくらい。全く違いを感じませんし、周りの人も偏見を持っている人はいません。ただ、先日、LGBTの方のドキュメンタリーを2本見て思ったのですが、ご本人たちは生きづらさを感じておられるようでした。それは人権侵害というよりももっと身近なパーソナルな問題のように思われました。親や友人、好きになった同性の人からの理解が得られない、そういう生きづらさ、不安、不満。そして自分自身の体に対するコンプレックス、違和感などです。そういったパーソナルな問題はポスターやリーフレットにて万人に啓発するよりも相談窓口の開設の方が良いのではないかと思います。
- とても難しい問題で言葉も選ぶし、一言では絶対に言い表せられない。私は個性としてとらえている。ただ、普通に共存すれば良い。人は誰しも傷つく事は絶対にある。辛い思いをして、辛い経験をして初めて人として深くなり人に優しくできる。経験値が高くなると傷つかなくなってくる。性的マイノリティ、LGBT等だけが特別ではない。私は辛い事は経験しなさいと教育されてきたし、子どもにも教育している。その時に大切なのが寄り添って話し合う事。その事が希薄になっている事が一番問題だと思う。
- これまであまり気にしないで生活してきたので、これからは少し留意するようになっていきたいと思います。中立的、客観的な情報を今よりも得られるようになれば判断のための情報が増えていいのではないかと考えます。

- 日本では個性がまだ認められていない。人と同じがベストと思われている風習がある。日本人のそのような悪い？風習、考え方がある限り真の理解を得ることは難しいと思います。今このようなアンケートを記入していることすら不思議、疑問でなりません。私は見かけ等で人を判断したことがなく、子供の頃から両親には「変人」と言われていました。そのような人間（親）がいる限り難しいかな。でも「偽」でも良いので理解がある世の中を作れば当事者は苦しくない（気づかない）のではないのでしょうか。
- 性的マイノリティの方でなければ分からない体験や悩み、人に言いづらい事などあるのではないかとと思うので、その方々が心を開ける場所があるといいのではないかと感じた。また、親しい間柄であっても不明な事もある。ひとりひとりが生への理解を深めたり、情報を知っていくことも大切になるのではないかと思った。
- 私は30年代後半の男ですが、性的マイノリティではありません。育ってきた環境から男は男らしく、との固定観念が少なからずあります。従ってどう接したらよいか、今一つ分かっていません。（普通にしていればよいのでしょうか。）例えばトイレをどうしているのか。そのあたりマイノリティの方にもある程度我慢していただく必要があると思うのと同時に、昨今の「LGBT」との言葉を聞くたびに理解をしなければとも思っています。
- 同封されていたパンフレットはコンパクトであるが、性的マイノリティの理解を深めるのに役立つ内容だと思う。『性的マイノリティの人もそうでない人もみんな「SOGI」という多様性のグラデーションの中を生きています。』という捉え方は、性的マイノリティの人は別世界の人という切り離れた考え方から生まれる偏見を修正してくれるものだと思います。このパンフレットを目にしたのは初めてですが多くの人の目に止まるように配布したり、より深く掘り下げた内容のものなども作られればより理解が深まると思います。
- ・社会がジェンダーありきで物事を考えすぎていると思う。男は仕事で女は家事・育児といったことから、学校の制服が男女別のものに決められていたり、就職時、女はヒールで化粧をするといったことのように、ジェンダーによって、こうしなければならないという決まりが常にある。それによって男女どちらかに分けられる。男だから、女だから、と分けるのではなく、ジェンダーレス化を進め、各自が主体性を持ち、様々な事を選択できるようになれば、自然と性的マイノリティやLGBTに対する理解もされるようになると思う。
 - ・また、区は啓発活動を行うだけでなく、区役所受付の制服をスカートからパンツにしたり、学校の制服の男女別を廃止にしたり、男女で色が分けられることの多いランドセルではなく、リュックでの通学を推奨する。区の施設のトイレにジェンダーレストイレを設置する。それが無理なら、男子トイレをすべて個室化し、サンタリーボックスを設置するなど、能動的な活動も行うべきだと思う。
 - ・問1の性別について、「答えたくない」という選択肢もあって良いのではないかと思う。
- 男性、女性という見方をされたくないと思う人も性的マイノリティになると初めて知りました。性指向は本人自身のもので、あえて対象にはならない人たちに知らせる必要はないと思います。また、人種が侵害されることのない、そういう世の中になってほしいと願っています。
- 私自身、この問題については知識がありませんでした。今後とも理解に努めたいと思っています。
- まだまだ無理に理解を促そうとすると感じがあり、不自然な気がします。様々な分野で大多数の方たちと違う部分を持つ方を受け入れる対応ができればと思う。「どういう呼び方をするか」が問題ではない。
- 最近、LGBTsの言葉をよく耳にするようになりました。以前は、テレビに出ている人しか知りませんでした。自分の身近にいたり、LGBTsの運動を道で見かけたりします。娘の学校でLGBTsについて学んでいます。まだ、法律的にはLGBTsの方々を守る、また、他の方と同じような権利を持つことは難しいかもしれませんが、少しずつ多くの人に理解されて、その方々が生きやすくなる社会を希望します。
- LGBTについては正直なところ騒がれすぎだと思っています。まず、LGBTを一緒に論じることに疑問があります。この中で本当に配慮が必要なのはTのみだと考えるからです。LGBTは単なる性癖であり、キリスト教世界やイスラム教世界では受容されにくい人たちでしょうが、稚児などの歴史がある日本の風土では比較的受け入れられていました。共に社会生活を営む上ではLGBT以外にも互いに配慮すべきことが多々あり、ことさらLGBTにフォーカスすること、そして常に少数派が優遇されなければいけないという事は間違っています。

次になぜ今、LGBTの方達が騒がれているのか疑問があります。SNSでは実際のLGBTの方達がLGBTを隠れ蓑にしてお金儲けをしている人達（当事者の信頼もなくしている）の存在を指摘し、苦言を呈しています。安易に片棒を担ぐことはそれを助長させることになる恐れがあります。

更に、LGBT運動の活動家の方が非寛容であることが不思議です。多様性を唱える割に異論を認めない押し付けがましきがあります。行政がそういう人たちの先峰となつてはいけなと考えています。

- 知人に「性的マイノリティである」と打ち明けられても受け止められる自信はありますが、わが子が当事者になったらと考えると受け止められる自信が全くありません。当事者の保護者をフォローする何かがあってもいいのではと思います。
- 確かに性的マイノリティやLGBTの方々には生きづらい世の中だと思う。その一方、なぜ、生まれてきた身体の性を尊重せずに自分の嗜好や表現を大事にしているのかわからない部分が大きく、普通にしていけば世の中との軋轢はないような気がします。そのため、この観点から世の中を改善する必要があるのですが、どうしても優先順位では高くしにくい部分があります。理解を促進するためには、このことが自分に大きくかかわっていることや理解が必要でない漠然としたままになってしまう。
- 私自身にとって日頃、関心の高いテーマについてのアンケートでしたが、10年弱情報収集をしていても知らない言葉が出てきて、まだまだだな、ちょっとおごりがあったかもしれないと思いました。この調査は素晴らしい取り組みですが、アンケート回答者がまさに性的マイノリティである可能性は問1を見るに想定内であるにも関わらず、「私がそうです。私はこんな経験をしました。困りました。」などを表現しづらい、何か隠しておくのが当たり前といったような空気を感じます。何かをカミングアウトするにしても大変勇気のいる社会です。問13では⑤に丸をつけましたが、専門窓口は絶対に当事者を傷つけないプロでなくてはならないし、⑤と同時に広く社会が一例例えばセクハラ、パワハラがいけないものだ認知されるようになったように一当事者を当たり前の存在であり、傷つけないで済むよう、知識を底上げできる様な取り組みが絶対に必要だと思います。そのうちの1つになりますが、子どもたちの通う学校の制服についてぜひ見直しを検討してください。「柏の葉中学校」「制服」で検索していただければその良い事例を見ていただけます。価値観の固まっていない子供達に従来のような融通のきかない『当たり前』やジェンダー観を押し付けるのはもうやめましょう。大人を教育するより長い目で見て効果もあります。
- 他人の場合は理解できるし、なんとか生きやすい世の中であってほしいと考えるが、子や孫だとショックだと思う。たぶん、子孫が繋がる事や子供に恵まれる喜びを知ってほしいと思っているからだろう。難しい問題だが本人の幸せを優先させるだろう。
- 私自身はLGBTに対して、否定はしないし嫌悪感も全くない。しかし、当事者から、もし相談等されても適切なアドバイスができる知識がない。そのような人が多いので医療的な補助が子ども向けのものに取り入れ始めている事にも驚きました。Eテレでできかんしゃトーマスの男女比率が変わったり、Eテレで放送されているアニメにゲイらしき場面があったり。子供には無理やり詰め込むのではなく、自然に取り入れてもらいたい。
- キリスト教会、福音派は性的マイノリティ、LGBT等について受け入れるのは難しいと思います。（ペンテコステ派のキリスト教会に属していますが）
- 性的マイノリティであることを理由に差別を受ける事はあってはならないが、必要以上に行政が介入することには疑問を感じる。容姿や体型等を揶揄したり、侮辱したりすることを学校で教わることと同様にマイノリティを馬鹿にしたりしてはいけないことを教える事ができれば、それ以外の行政による過剰な手当ては不要であると思う。
- 地方ほど、おそらく差別（偏見）はあるように思われる。
- 婚姻届以外は各個人とその周囲でクリアにしていくべき問題かなとも存じます。
- 社会は多様化してきているので、情報を得るチャンスさえあれば正しく理解されていくと思います。なので、打ち明けても問題ないよ、という社会づくりのためにメディア等で積極的に発信していくべきだと思います。

- 新聞やテレビで目に、耳にする機会は多くなったものの、人権の観点からであるよりも興味本位の色合いが濃いと感じる。新聞はまだしも、テレビはその傾向が強い。幸か不幸かこれまで接点はなく、自身、理解は浅いと感じる。”7~8%”の方々の身になって考え、受け止めたいと思う。
- 自分が小さいころよりも圧倒的に言葉を聞く機会が増えたので、そういった意味でも抵抗感が昔よりずいぶん減ったように思う。個性を出すことに対しても、社会が受け入れたり、認めようという意識が強いように思うので、今の取り組みが次の世代をもっと生きやすくするように思う。
- 問13について→講演会では興味がある方でないとなかなか参加する機会がないように思います。③~⑥だと伝えられる内容が少なくきちんと理解するには難しいと思うため、②だと思いました。

たまたま聞いた講演会でLGBTについて知りました。それまでレズビアンの方はレズビアン、ゲイの方はゲイと思っていましたが、外見より性的嗜好等に決まった枠組みがあるように思い込んでいましたが、LGBTの方にはそれぞれ当たり前ですが、個性があり、生まれた時は男性でも女性らしい服装が好きだが女性も男性も等々、十人十色だと聞き性的マイノリティだと聞いて、それまでまた勝手な思い込みを抱いて、時に押しつけている自分に気付きました。相手を傷つけることも大いにある問題なので、きちんとした理解が必要だと感じています。

- 用語の定義、評価の基準、尺度等をもう少しはっきりと示した方がよい。「理解」にも全面支持から支援、協力、容認、許容、無視までであると思う。
- 一昔前よりは認知されるようになったし、芸能人やメディアに出て来る人に中性的な方も増えているので、明るみには出てきたと思う。でも、年齢層、地域でその認識も大幅に異なるだろうから、CMのように全国に流せて大多数の目に触れるような正しい情報（偏見のない）メディアで情報を繰り返し行うことが大事だと思う。
- 当事者もいろいろだと思います。LGBT当事者の思いも多様であるという前提で施策を進められればと思います。

令和元年度第3回
区政モニターアンケート
集計結果報告書

登録印刷物番号

31-0057(3)

令和2年3月発行

編集・発行

杉並区総務部区政相談課
〒166-8570
杉並区阿佐谷南1-15-1
TEL03-3312-2111(代表)

再生紙を使用しています